全体研修
「研究のまとめ」

本研修の流れ

① 本年度の研究について

② 次年度の研究について

研究テーマ

児童生徒の「わかった!」「できた!」「活用できた!」の実現に向けた授業づくり
～学習内容の定着を目指した「学びのあしあと」の工夫～

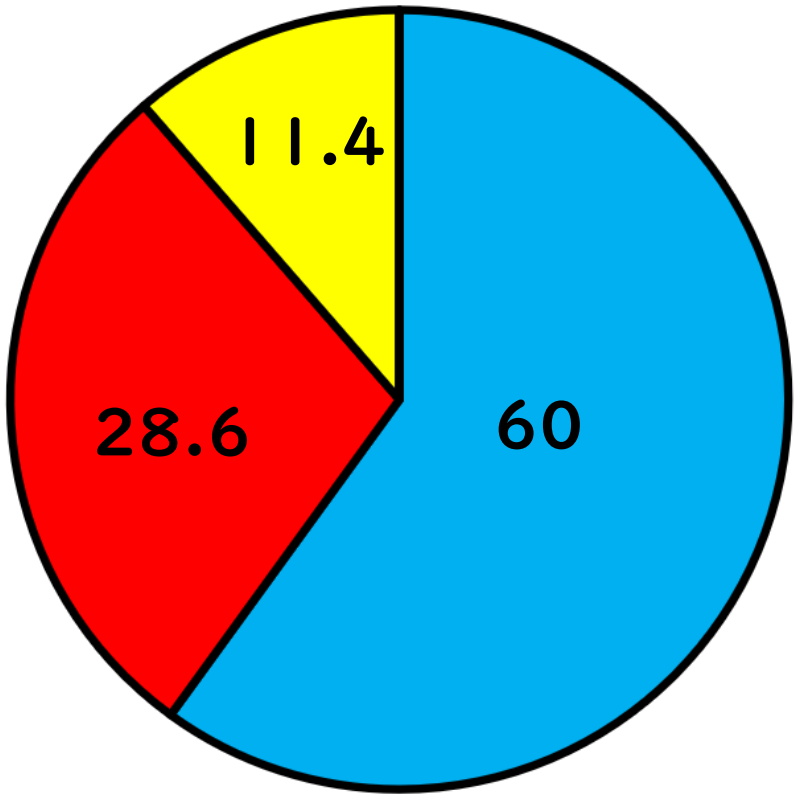
仮説

①児童生徒の「わかった！」「できた！」「活用できた！」を目指した授業を実施することで、個々の目標達成につながる力をつけることができるだろう。

②学級の特色を生かした「学びのあしあと」を工夫することで、児童生徒の日々の学習内容の定着につながるだろう。

仮説①について

Ｑ１．本研究は、授業の質向上につながるものであったか。
※「授業の質向上」の基準は以下の通りとする。
①個別の指導計画（日々の授業）で立てた各教科等の目標達成が果たされたとともに、その一因として本研究が一翼を担ったと考えられる場合。
②授業をつくる上で、研究授業や授業研究会の内容が役立った場合。



自身も含めた本校全体の授業の質が向上したと感じる。

自身の授業の質が向上したと感じる。

自身以外の周りの教師の授業の質が向上したと感じる。

現在のところ、向上は見られない。

【見解】
○意識調査の数字で見れば、授業の質向上は確実と言える。
○「自身の成長を実感」 88.6%
○「周りの教師の成長を実感」71.4%

●「自身の成長を実感できなかった」11.4%
→・ 担任する児童生徒に落とし込めなかった。
・ 目指す目標が高すぎる可能性。
・ 教師間で成長を認め合う時間の確保が不十分。

☆「一人一事例」型 ※視点①自身に当てはめる
視点②目標は絞る。
☆グループ研が、研究授業者のみならず、所属職員の「相談の場」という機能をもつべき。
☆教師だって、褒められたい。← チームの目と心

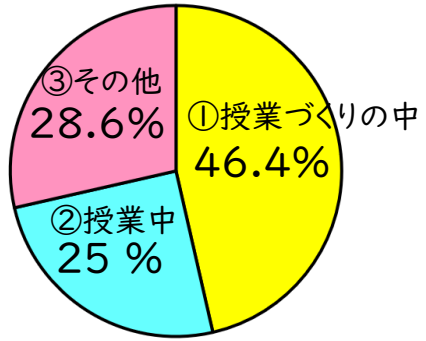
仮説①について

Q1.理由について（自由記述）※一部
※「本研究は、授業の質向上につながるものであったか。」の回答に対して

○　授業づくりについて教師同士で話す機会の増加。生徒の授業などへの参加の仕方が変化。
○　職員室では授業についてよく会話がなされている。ワークシート等も工夫を実感。
○　授業研究会により、授業をつくるときの考え方等を整理。
○　グループ研で、グループの先生方と、国語Aグループのテーマである「日常生活に生かしていく授業内容」について、意見交換　→　自分自身が授業をする際にも、そのような視点で考えるように意識。
○　以前と比べて家庭生活や授業以外の時間にも、教科で学んだことを生かそういうと意識の向上。分数の指導後に、帰りの会に水筒の残りを「２分の１だね」などと話しかけたり、日記に残したりするようになった。
○　授業だけでなく、子供たちに合った学びの履歴（あしあと）や生活、行事等との関連について、他の先生方は上手だなと感じることが増加。
○　研究授業を通して、自分の考えに＋αで意見をもらうことができ、また、それを子供の実態に落とし込んだ上で授業を実施。
○　授業をT2等で関わっているときに、分かりやすさ、楽しさを実感。
○　授業内容を考える際の、視点の変化。視野の広がり。
○　授業の型の存在　→　授業イメージのしやすさ。
○　１年間を通して、児童の成長を実感。

【考察】

- 「授業の質向上を実感した理由」に関する自由記述（全28件）を、分類分け
  ① 授業づくりの中で実感　13件（ 46.4%）
  ② 授業中に実感　7件（ 25%）
  ③ その他（日常生活、グループ研、教材研究）の場面で実感　8件（ 28.6%）



【授業の質を実感したタイミング】

【要因】○　授業における適切な目標設定ができるようになった。
　　活動及び教材のアイデアが広がった。
　　チームとしての機能が高まった。授業の型が活用できる価値をもった。
【影響】児童生徒は・・・勉強を楽しむ子供の増加。個々の目標達成率の向上。
　　教師は・・・自信の向上。授業以外に業務に向ける時間の確保。仕事の楽しさ。

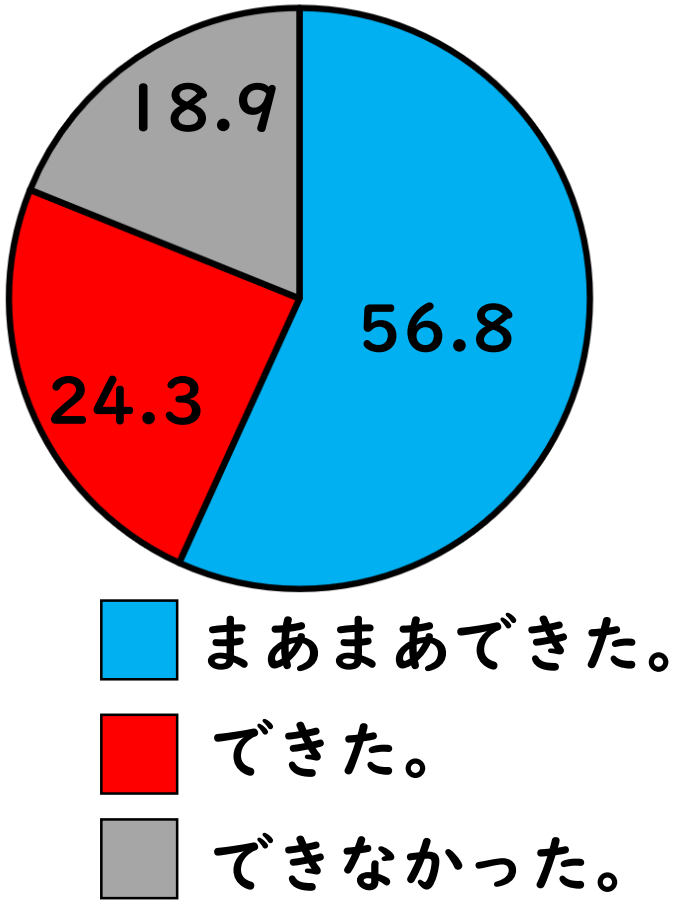
【授業中に実感】を増やすためには？
☆咄嗟の出来事や想定外の回答への対応力　→　教師の柔軟性、アイデア、話術、教室環境
☆子供が目指す姿を具体的に描き、達成に向かう力　→　教材や板書、スライド、言葉かけ、活動の内容と量

【授業後の姿から実感】を生むためには？
☆子供の成長を実感する場面を意図的に設定。
☆授業後の変容に焦点を当てた研修と実践。

初期学習の追究
美しい字 引きつける絵
リフレーミング 人権感覚
各教科の見方・考え方

仮説②について

Q、学びのあしあとの実践を行うことができましたか？
自身もしくは周りの教師が行ってきた学びのあしあと
の実践の中で、印象的であった実践を１つ教えてください。



○学習成果物やワークシートの掲示。
○「２月までに給食当番の牛乳配りができるように伸ばそう」と意図し、算数や自立活動の学習内容を工夫。
○生徒の毎時間の振り返りにコメントをその場で記入。
○授業中の制作物の掲示（総合的な探求：振り返りシート、ALT交流：書道、体育：持久走たすき、音楽・美術：学習発表会の衣装、美術：合同作品展の賞状、日生：生徒のよい発言、その他：課題の提出物など）
○昨年度使用した教材をアップグレード。生徒の見通しの持ちやすさを高めたり、昨年度との変化を比べられたりするような教材の作成の工夫。
○児童生徒の手の届く場所に、成果物を設置。

仮説②について

Q、学びのあしあとの実践を行わなかった（行うことができなかった）理由を教えてください。

【回答】
・学習したことを、他の授業等に結びつけることができなかった。
・学習内容のファイリングは行ったが、掲示はできなかった。
・把握できていない。
・記録を残していない。

【考察と改善策】

・「教室掲示が学びのあしあとの前提」と捉えている可能性。

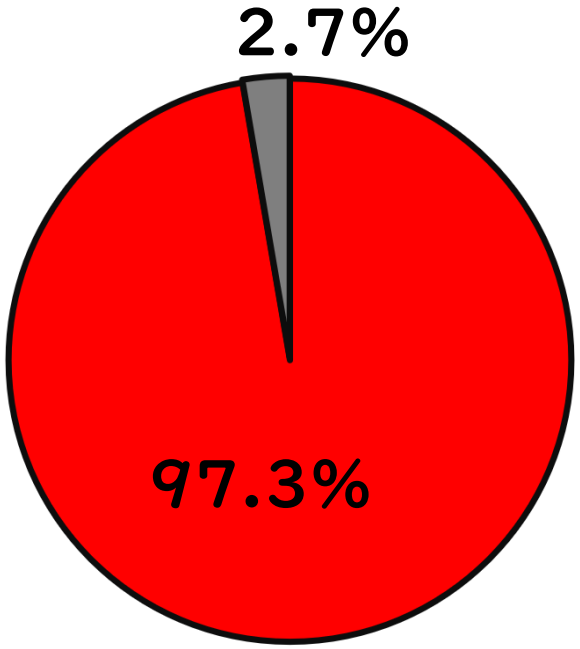
→「授業と授業」や「授業と行事」「授業と日常生活」等を意図的に関連させている教師の工夫を、研究部が主となって発信するべき。

・学校行事等や授業に対する教員の意識

→１つ１つの教育活動に対して、「養う場」「発揮する場」という捉え方をもつこと、打開策の１つ。
（例、「時間を守る」「姿勢を保つ」「反応する」「身だしなみを整える」「内容を理解する」等は、全校集会の中で急に培われるものではない。）

本研究を通して

Q、本研究を通して、児童生徒に変容は見られましたか。



■ 変容が見られた。

■ 変容が見られなかった。

【変容が見られなかった】理由についての回答（1件）

・体力、気持ちなど、大きく変化したようには感じられなかった。

【改善策】

・研究授業→授業研究会→その後の実践→伸び悩む児童生徒への手立て
☆朱書き部分までをグループ研で取り扱う。

・体力や気持ちの変化の具体的指標の存在が必要。
→ルーブリック評価の作成を選択肢に入れる。

本研究を通して

Q、本研究を通して、教師としての自己変容があれば、教えてください。

○授業の成果と生徒の成長が一致。
○授業づくりの際、「何のためにこの授業を実施するのか」「どのように授業を実施すれば生徒が興味関心を持って参加できるか」を熟考。
○授業研が年数回ではあるが、見たり、考えたりすることで、授業の引き出しが少しずつ増加。
○大変勉強になった１年。特に学習における３観点に対する意識が向上。
○初期学習の指導について、とても勉強になった。夏休み等、時間があれば教材研究や教材作りに励みたい。
○今までは授業中の説明が多く、一方通行の授業。主体的な学習を意識するようになり、授業の半分以上の時間を、問題解決や具体物の操作の時間として設けることを目標化。達成に向け努力。
○学習したことがどのような場面で活用できるのかを考える機会が増加。
○記録を残し、残した記録を児童生徒とともに活用する大切さを実感。
○教師間のコミュニケーションの増加。
○他の学級の学級経営を参考。学びのあしあとや、子供と目一杯遊ぶ様子、工夫の多い言葉かけなど、真似から始めたい。

仮説について

①児童生徒の「わかった！」「できた！」「活用できた！」を目指した授業を実施することで、個々の目標達成につながる力をつけることができるだろう。

➡ **概ね実証**

②学級の特色を生かした「学びのあしあと」を工夫することで、児童生徒の日々の学習内容の定着につながるだろう。

➡ **概ね実証**

【概ね実証】について

- 児童生徒の変容は教師による主観によるもの。
- 「○○の力を△△にしたら達成」等の、具体的な達成規準を未設定。

↓

◇多様な立場からの評価
◇研究テーマに基づく基準の設定。
（テーマによっては、チェックリストやアセスメントの作成）